

「老人保健施設における転倒等
老年症候群に伴うリスク説明と
家族・本人におけるその理解に関する調査」

報告書

目次

I. 調査概要	2
II. 調査結果	
1. 調査対象者の属性	5
2. 転倒スコアによる高齢者の転倒リスク評価	7
3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果	10
III. 参考資料	
その他検定結果 1. 「転倒スコア」と対象者属性の関係	20
その他検定結果 2. 「転倒スコア」と「説明後のアンケート」の関係	21
その他検定結果 3. 「転倒スコア」の変化と施設の手順書評価の関係	23
その他集計結果 個別調査票③「事前にご記入いただくチェック・シート」	24
その他集計結果 施設調査票	31

I. 調査概要

■ 事業の目的と主な調査内容

令和3年7月、日本老年医学会による転倒に関するステートメント「介護施設内での転倒を知っていただくために ～国民の皆様へのメッセージ～」が公表された。これを受け、全国老人保健施設協会では、学術委員会に「老人保健施設における転倒等老年症候群に伴うリスク説明と家族・本人におけるその理解に関する研究班」を設置し、

- ・ 転倒リスクを正しく理解して頂くには、どのような説明手順が利用者・ご家族の理解が得られやすく、現場に負担をかけないか。
 - ・ 介護現場以外の法曹界やマスコミにも、このステートメントの内容を正しく伝え、共通のコンセンサスを得るにはどうすれば良いか。
- 等について検討することとした。

本調査は、現場に大きな負担をかけず、利用者・ご家族に転倒リスクを正しく理解して頂ける説明手順を提案する目的で実施した。

■ 調査期間

令和4年9月1日～12月15日

■ 調査対象施設

- ・ 社会福祉法人恩賜財団済生会に所属する介護老人保健施設

■ 調査対象施設数／回収率

対象28施設 → うち回収21施設(回収率 75.0%)／対象者合計327名

■ 調査対象者の選定

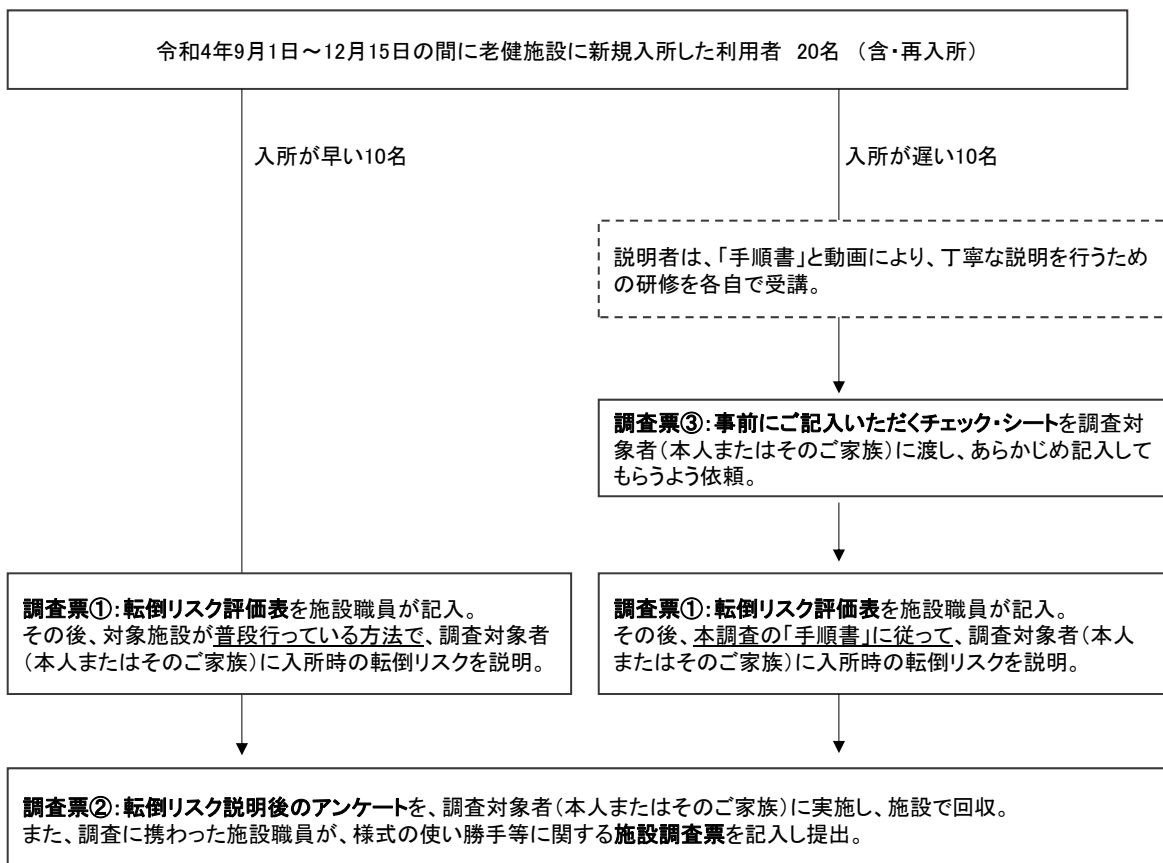
本調査では、調査に同意が得られた新規入所者20名を対象として、2種類の異なる方法で、10名ずつに対し入所時リスク説明を実施し、その前後に①～③の個別調査票による調査を実施した。また、調査を実施した施設職員に、施設調査票への回答も依頼した。

調査対象者の抽出方法：

- ・ 調査実施期間中(令和4年9月1日～12月15日)に老健施設に入所(入所サービスまたは短期入所療養介護)した利用者または家族のうち、調査協力への同意が得られた方を調査対象とした。
- ・ 調査実施期間中の新規入所者が20名以上いる場合は、施設で決めたルールにより、最大20名を無作為抽出することとした。

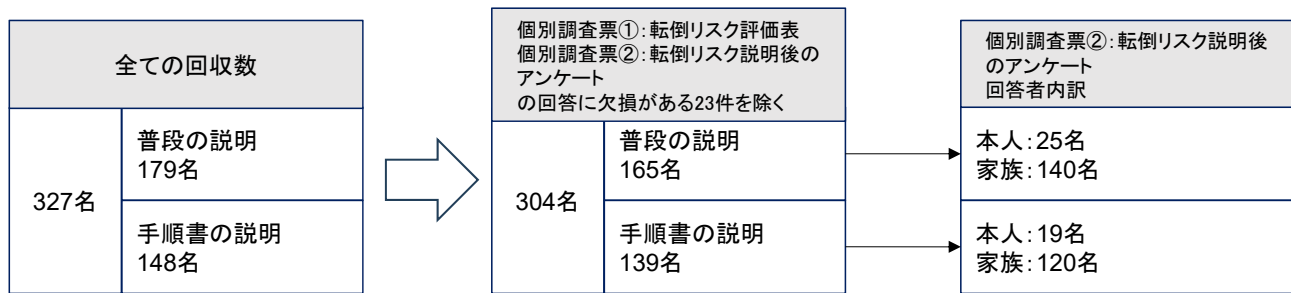
I. 調査概要

■ 調査実施フロー



I. 調査概要

■ 有効なサンプルサイズ



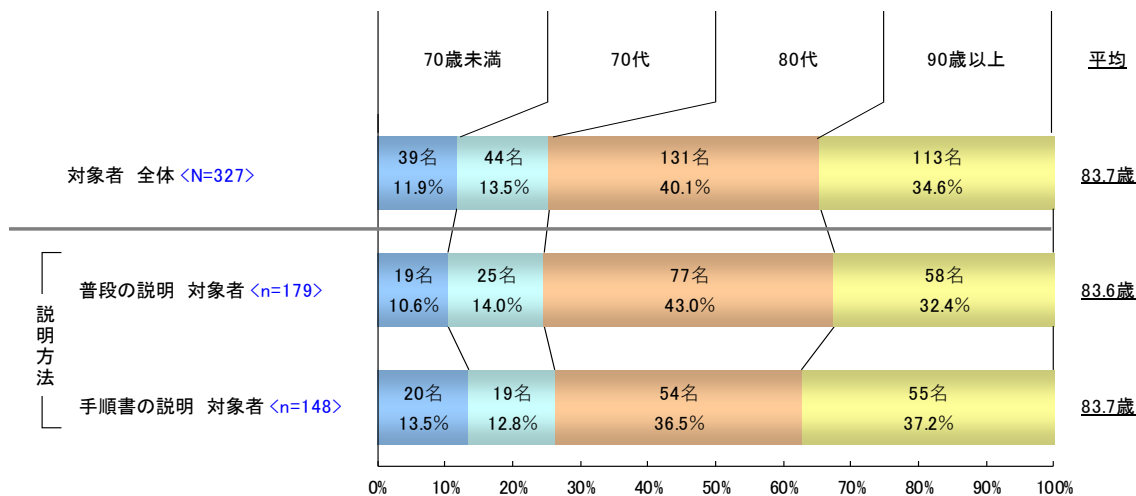
個別調査票①: 転倒リスク評価表 欠損17件
 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 欠損6件

II. 調査結果 1. 調査対象者の属性

調査対象者は327名で、平均年齢は83.7歳。性別の内訳は男性106名(32.4%)、女性217名(66.4%)。

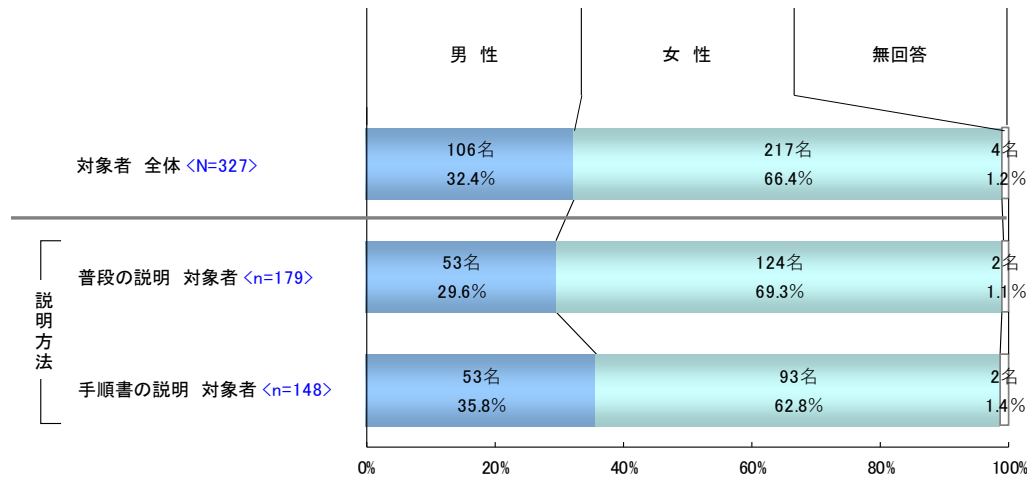
普段の説明を行った対象者数は179名で、平均年齢83.6歳。男女比は男性29.6%・女性69.3%。
 手順書の説明を行った対象者数は148名で、平均年齢83.7歳。男性35.8%・女性62.8%であった。

■ F1. 対象者の年齢



Ⅱ. 調査結果 1. 調査対象者の属性

■ F2. 対象者の性別



6

Ⅱ. 調査結果 2. 転倒スコアによる高齢者の転倒リスク評価

施設内の転倒リスクを評価する手法は多く公表されている。入所時のリスク評価は、入所後にゆっくり行うものと違い、限られた時間の中で評価を行うことが望まれる。

そこで、簡単な評価手法としては5項目のFall Risk Indexがある。このIndexで6点以上、すなわち過去の転倒履歴+1項目、あるいは転倒履歴以外の項目3つ以上でリスクが高くなる。

研究班において検討した際、項目No. 1~5以外の大きなリスク要因として、認知症により行動制限がかけられない場合が挙げられるとの指摘があったことから、本調査研究班では項目No. 6を転倒リスク評価表に加えている。

■ 個別調査票①: 転倒リスク評価表 項目一覧

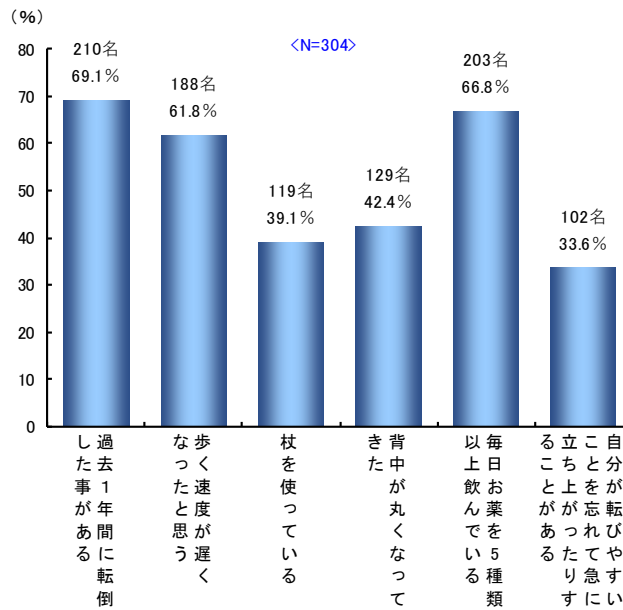
No	項目	配点
1	過去1年間に転倒した事がありますか？	5点
2	歩く速度が遅くなったと思いますか？	2点
3	杖を使っていますか？	2点
4	背中が丸くなってきましたか？	2点
5	毎日お薬を5種類以上飲んでいませんか？	2点
6	自分が転びやすいことを忘れて、急に立ち上がったたり歩き出したりすることがありますか？	

合計点(13点満点)
||
「転倒スコア」

7

Ⅱ. 調査結果 2. 転倒スコアによる高齢者の転倒リスク評価

■個別調査票①: 転倒リスク評価表
回答の分布(複数回答)



説明方法	普段の説明 対象者 <n=165>		手順書の説明 対象者 <n=139>	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
普段の説明	107名	64.8%	106名	64.2%
手順書の説明	103名	74.1%	82名	59.0%

8

Ⅱ. 調査結果 2. 転倒スコアによる高齢者の転倒リスク評価

・転倒リスクの計算 1問め5点、のこり2点として13点満点で普段の対象者と手順書の対象者の得点の平均値、中央値、および2群間の検定順位と検定とT検定。
・手順書の説明の方が平均点が高い=転倒リスクが高いが有意差はなかった。

■ 記述統計

	度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
転倒スコア	304	7.6579	3.32925	.00	13.00
転倒リスク単純計	304	3.1283	1.33250	1.00	6.00
説明方法	321	1.46	.499	1	2

■ 順位

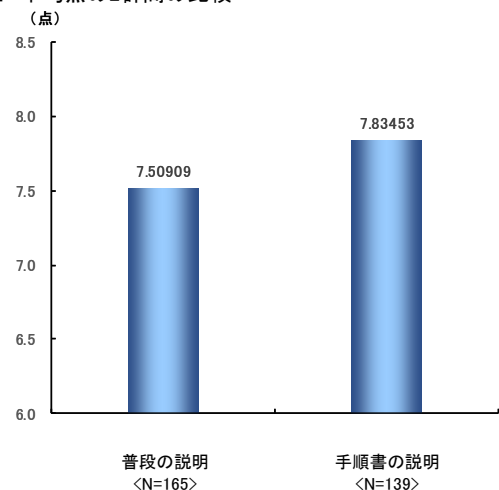
	説明方法	度数	平均ランク	順位和
転倒スコア	従来	165	149.06	24595.00
	手順書等	139	156.58	21765.00
	合計	304		
転倒リスク単純計	従来	165	153.73	25365.50
	手順書等	139	151.04	20994.50
	合計	304		

■ 検定統計量

	転倒スコア	転倒リスク単純計
Mann-Whitney の U	10900.000	11264.500
Wilcoxon の W	24595.000	20994.500
Z	-.752	-.273
漸近有意確率 (両側)	.452	.785

a. グループ化変数: 説明方法

■ 平均点の2群間の比較

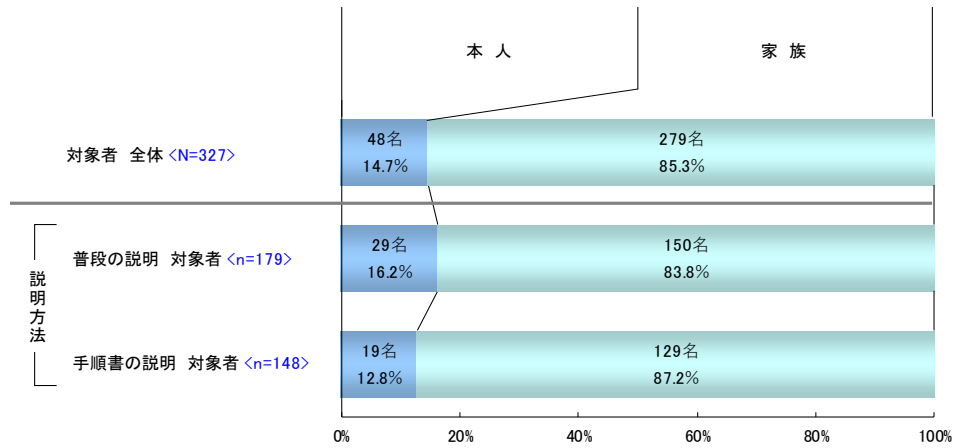


9

Ⅱ. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケートの回答者の属性をみると、「普段の説明」は家族が83.8%、「手順書の説明」は家族が87.2%であった。
説明を受けた本人および家族の平均年齢は、「普段の説明」が本人82.4歳/家族62.1歳、「手順書の説明」は本人84.4歳および家族63.4歳。
性別でみると、「普段の説明」の男性の割合は「普段の説明」が本人37.9%/家族29.3%、「手順書の説明」は本人21.1%/家族28.7%という内訳となった。

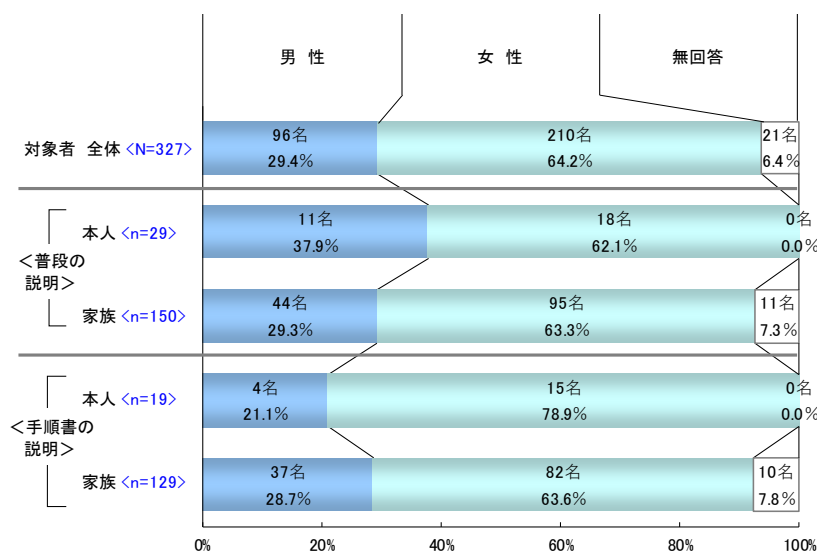
■ 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 回答者区分



10

Ⅱ. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

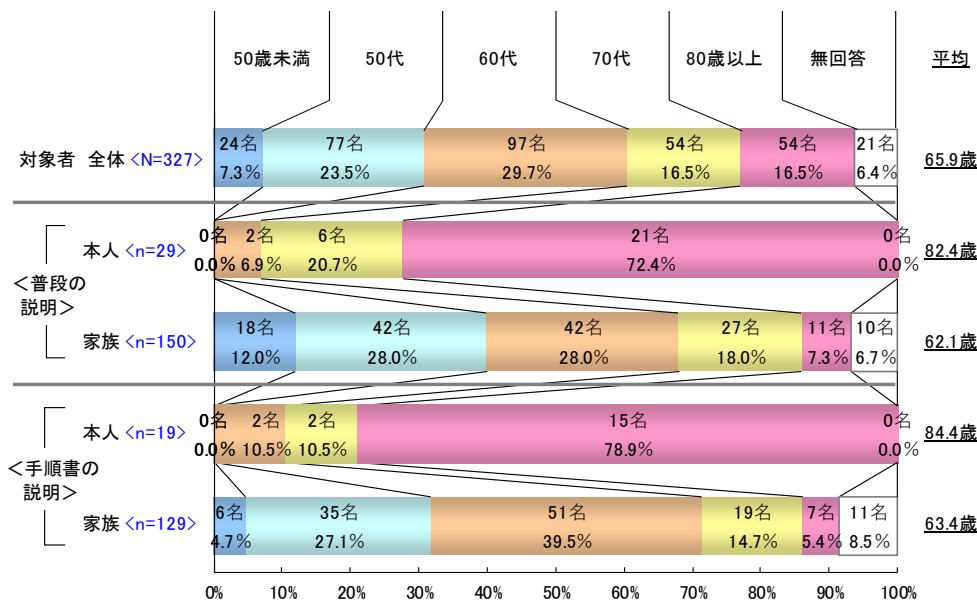
■ 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 性別



11

Ⅱ. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

■ 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート
年代



Ⅱ. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

転倒リスク説明の理解度を評価するために、「個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート」の設問1~11について、下図のようにスコア化し、分析した。結果、どの項目も本人より家族の方が平均スコアが高く、本人よりも説明に対する理解度が高いことがうかがえた。また、説明の違いに関わらずほとんどの項目において家族の理解度が高い中、項目No. 2と3は平均スコアが低めである。

■ 個別調査票② 設問項目一覧 および平均スコア

※プラスの割合＝「そう思う+ややそう思う」の割合

No	項目	配点				本人				家族			
		4点	3点	2点	1点	普通の説明 <N=25>		手順書の説明 <N=19>		普通の説明 <N=140>		手順書の説明 <N=120>	
						プラスの割合(%)	平均スコア(点)	プラスの割合(%)	平均スコア(点)	プラスの割合(%)	平均スコア(点)	プラスの割合(%)	平均スコア(点)
1	身体機能低下に伴い転倒リスクが高くなる ことがある	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わ ない	68.0	3.0	100.0	3.6	96.4	3.8	98.3	3.9
2	施設に移ることで転倒リスクが高くなる ことがある	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わ ない	20.0	2.0	68.4	2.8	47.9	2.5	67.5	3.0
3	運動やリハビリにより、身体機能が回復 すると、転倒が増えることがある	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わ ない	24.0	2.0	57.9	2.8	53.6	2.6	80.8	3.3
4	転倒リスクが高い人は施設内でも転倒 することがある	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わ ない	48.0	2.6	84.2	3.2	93.6	3.6	95.0	3.7
5	転倒に伴う骨折により長期にわたって 心身機能が低下することがある	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わ ない	68.0	3.1	89.5	3.2	94.3	3.7	97.5	3.8
6	転倒による頭蓋内損傷により長期にわ たって心身機能が低下することがある	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わ ない	68.0	3.1	89.5	3.2	97.1	3.8	97.5	3.8
7	転倒リスクの評価は納得できるもので したか。	納得でき た	まあ 納得でき た	あまり 納得でき ない	納得 でき ない	64.0	2.8	84.2	3.3	98.6	3.7	99.2	3.8
8	施設内における転倒予防対策はご理解 いただけましたか。	わかった	大体 わかった	あまり わから なかった	わか らな かった	56.0	2.8	84.2	3.3	97.1	3.7	99.2	3.8
9	転倒発生時の施設の対応についてご理 解いただけましたか。	わかった	大体 わかった	あまり わから なかった	わか らな かった	56.0	2.7	89.5	3.3	97.9	3.7	99.2	3.8
10	転倒予防を目的として薬を見直すこと があることについてご理解いただけ ましたか。	わかった	大体 わかった	あまり わから なかった	わか らな かった	36.0	2.4	84.2	3.2	91.4	3.6	98.3	3.7
11	今日の説明は全体として納得いただけ るものでしたか。	納得でき た	まあ 納得でき た	あまり 納得でき ない	納得 でき ない	56.0	2.8	84.2	3.1	97.9	3.7	99.2	3.9

II. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

■ 個別調査票② 平均スコア比較

■ 普段の説明 <N=25> ■ 普段の説明 <N=140>
■ 手順書の説明 <N=19> ■ 手順書の説明 <N=120>

No	項目	本人	家族
1	身体機能低下に伴い転倒リスクが高くなる ことがある	3.0 3.6	3.8 3.9
2	施設に移ることで転倒リスクが高くなる ことがある	2.0 2.8	2.5 3.0
3	運動やリハビリにより、身体機能が回復 すると、転倒が増えることがある	2.0 2.8	2.6 3.3
4	転倒リスクが高い人は施設内でも転倒 することがある	2.6 3.2	3.6 3.7
5	転倒に伴う骨折により長期にわたって 心身機能が低下することがある	3.1 3.2	3.7 3.8
6	転倒による頭蓋内損傷により長期に わたって心身機能が低下することがある	3.1 3.2	3.8 3.8
7	転倒リスクの評価は納得できるもので したか。	2.8 3.3	3.7 3.8
8	施設内における転倒予防対策はご理 解いただけましたか。	2.8 3.3	3.7 3.8
9	転倒発生時の施設の対応についてご理 解いただけましたか。	2.7 3.3	3.7 3.8
10	転倒予防を目的として薬を見直すこと があることについてご理解いただけ ましたか。	2.4 3.2	3.6 3.7
11	今日の説明は全体としてご納得いただ けるものでしたか。	2.8 3.1	3.7 3.9

他の項目に比べて
項目5、6は
説明の違いによる
差が小さい。

14

II. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

多くの項目で、「普段の説明」と「手順書の説明」で、手順書の説明の方が、理解は改善していた。しかし一部の項目では有意差に達していない。合計点数では有意差を認めた。

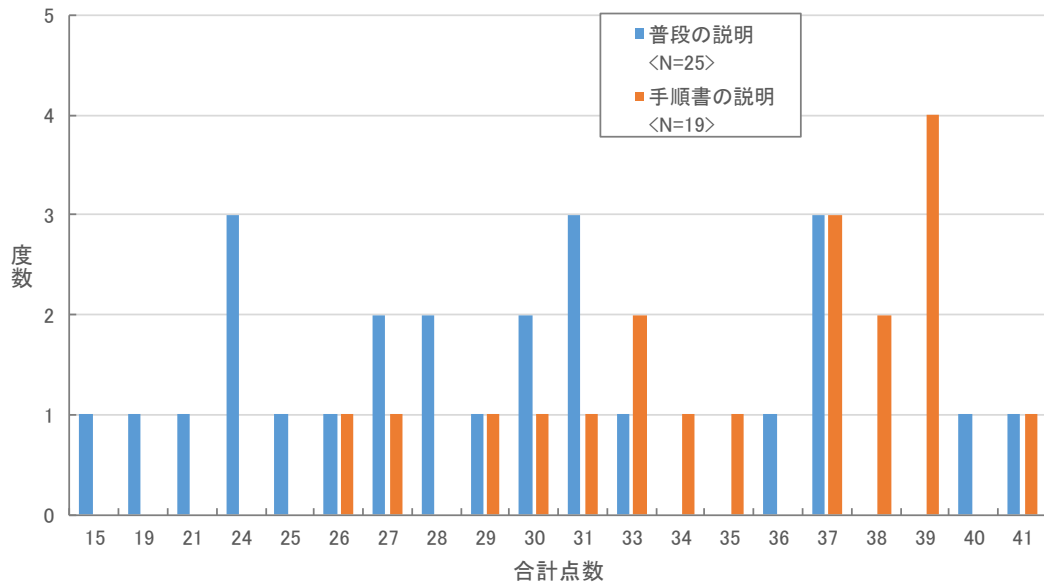
■ 平均スコア 分析結果(本人/家族)

	項目	本人				家族			
		Mann-Whitneyの U	Wilcoxonの W	Z	漸近有意確率(両側)	Mann-Whitneyの U	Wilcoxonの W	Z	漸近有意確率(両側)
1	身体機能低下に伴い転倒リスクが高くなる ことがある	163.000	514.000	-2.084	0.037	8485.000	19511.000	-2.417	0.016
2	施設に移ることで転倒リスクが高くなる ことがある	119.500	470.500	-3.076	0.002	6788.500	17814.500	-4.214	0.000
3	運動やリハビリにより、身体機能が回復 すると、転倒が増えることがある	143.500	494.500	-2.482	0.013	5680.500	16706.500	-6.012	0.000
4	転倒リスクが高い人は施設内でも転倒 することがある	160.000	511.000	-2.086	0.037	8341.000	19367.000	-2.060	0.039
5	転倒に伴う骨折により長期にわたって 心身機能が低下することがある	238.000	428.000	-0.221	0.825	9139.500	20165.500	-0.709	0.479
6	転倒による頭蓋内損傷により長期にわた って心身機能が低下することがある	240.000	591.000	-0.172	0.864	8625.000	19651.000	-1.884	0.060
7	転倒リスクの評価は納得できるもので したか。	179.000	530.000	-1.665	0.096	8129.500	19155.500	-2.804	0.005
8	施設内における転倒予防対策はご理 解いただけましたか。	176.000	527.000	-1.725	0.084	8175.000	19201.000	-2.723	0.006
9	転倒発生時の施設の対応についてご理 解いただけましたか。	166.000	517.000	-1.968	0.049	8365.500	19391.500	-2.398	0.016
10	転倒予防を目的として薬を見直すこと があることについてご理解いただけ ましたか。	207.500	558.500	-0.974	0.330	8291.500	19317.500	-2.576	0.010
11	今日の説明は全体としてご納得いただ けるものでしたか。	149.000	500.000	-2.356	0.018	8624.000	19650.000	-1.618	0.106
	合計点数R	118.000	469.000	-2.973	0.003	6162.000	17188.000	-5.032	0.000

15

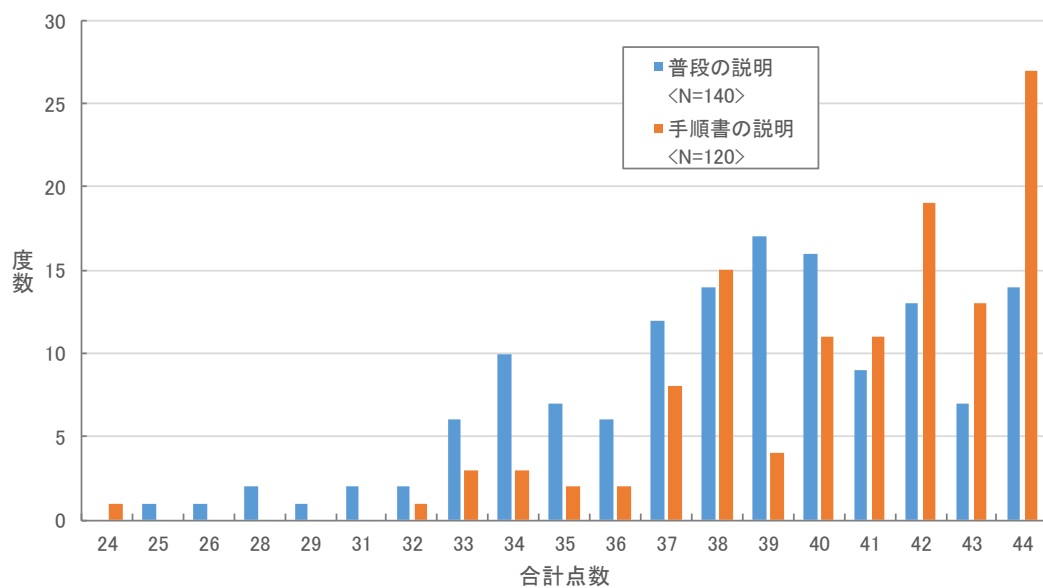
Ⅱ. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

■個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 理解度 合計点数の分布 <本人>



Ⅱ. 調査結果 3. 個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 集計結果

■個別調査票②: 転倒リスク説明後のアンケート 理解度 合計点数の分布 <家族>



30点以下を仮にトラブルのリスクが高いと考えると

- 本人 15人→4人
- 家族 8人→1人



理解度の改善がみられる

参考資料

Ⅲ. 参考:その他検定結果 1.「転倒スコア」と対象者属性の関係

検定方法:数量化Ⅰ類

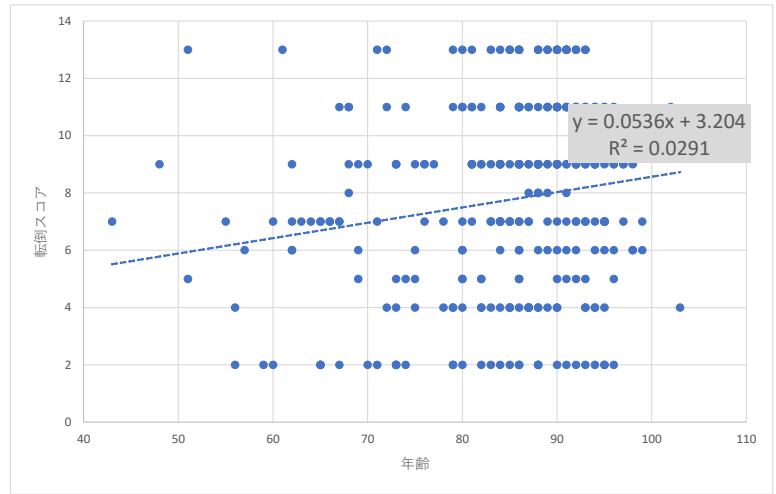
<結果>

性別や説明方法に比較して、年代による転倒スコアへの影響度が若干高いものの、検査精度(重相関係数の2乗)が0.0555と低く、属性による影響は少ないといえる。

各変数のカテゴリースコア

アイテム	カテゴリ	カテゴリースコア
年代	70歳未満	-0.8580
	70代	-1.2472
	80代	0.1386
	90代	0.5256
性別	男性	-0.5698
	女性	0.2520
説明方法	普段の説明	-0.2070
	手順書の説明	0.2463
(定数項)		7.6133

<参考>転倒スコア×年齢(近似直線)



転倒スコアとの相関係数

アイテム	単相関係数	偏相関係数
年代	0.2006	0.1828
性別	0.1358	0.1140
説明方法	0.0483	0.0691

精度:重相関係数 0.2357 重相関係数の2乗 0.0555

アイテム間の単相関係数

	年代	性別	説明方法
年代	1.0000	0.1671	-0.0262
性別	0.1671	1.0000	-0.1304
説明方法	-0.0262	-0.1304	1.0000

20

Ⅲ. 参考:その他検定結果 2.「転倒スコア」と「説明後のアンケート」の関係

検定方法:重回帰分析

【「個別調査票②:転倒リスク説明後のアンケート」転倒リスク説明に対する理解度(設問1~6)の結果】

「1)身体機能低下に伴い転倒リスクが高くなることもある」が最も転倒スコアへの影響度が高い。しかし自由度調整済み決定係数が0.0757と低く、回帰式の信頼度は低い。

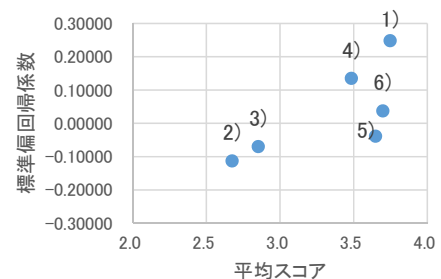
【「個別調査票②:転倒リスク説明後のアンケート」転倒リスク説明に対する感想(設問7~11)の結果】

「11)今日の説明は全体として納得できたか」の影響度が最も高いが、自由度調整済み決定係数が0.0512と、同様に信頼度は低い。

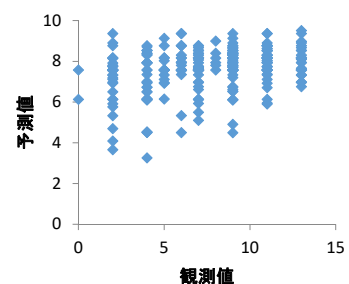
「個別調査票②:転倒リスク説明後のアンケート」転倒リスク説明に対する理解度(設問1~6)

アイテム	平均スコア	標準偏回帰係数	P値
1) 身体機能低下に伴い転倒リスクが高くなることもある	3.747	0.2484	P < 0.001
2) 施設に移ることで転倒リスクが高くなることもある	2.674	-0.1126	0.1161
3) 運動やリハビリにより、身体機能が回復すると、転倒が増えることもある	2.852	-0.0695	0.3376
4) 転倒リスクが高い人は施設内でも転倒することがある	3.484	0.1353	0.0673
5) 転倒に伴う骨折により長期にわたって心身機能が低下することがある	3.648	-0.0383	0.6657
6) 転倒による頭蓋内損傷により長期にわたって心身機能が低下することがある	3.697	0.0376	0.6669

修正R2乗=0.0757



観測値×予測値

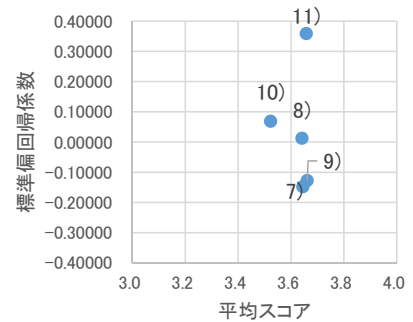


21

Ⅲ. 参考:その他検定結果 2. 「転倒スコア」と「説明後のアンケート」の関係

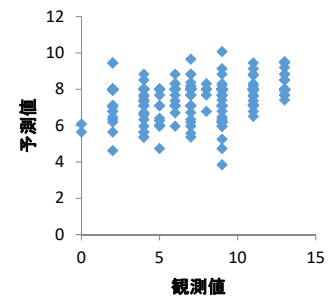
「個別調査票②:転倒リスク説明後のアンケート」転倒リスク説明に対する感想(設問7~11)

アイテム	平均スコア	標準偏回帰係数	P値
7) 転倒リスクの評価は納得できるものだったか	3.645	-0.1479	0.1104
8) 施設内における転倒予防対策は理解できたか	3.641	0.0125	0.9159
9) 転倒発生時の施設の対応について理解できたか	3.661	-0.1275	0.3206
10) 転倒予防を目的として薬を見直すことができることについて理解できたか	3.523	0.0690	0.4425
11) 今日の説明は全体として納得できたか	3.658	0.3592	P < 0.001



修正R2乗=0.0512

観測値×予測値



Ⅲ. 参考:その他検定結果 3. 「転倒スコア」の変化と施設の手順書評価の関係

検定方法:二項ロジスティック回帰分析

- 施設調査票 問4(施設職員による手順書についての評価)について、「そうだ=4点、まあそうだ=3点、ややちがう=2点、ちがう=1点」としてスコアを算出。
- 「普段の説明」→「手順書の説明」で転倒スコアの平均値が上がった施設と、変化なしor下がった施設で比較。

<結果>

検査精度が非常に低く(AIC=27.4330、R2乗=0.0259)、またP=0.4402と、手順書の評価間に有意差があるとはいえない。またROC曲線を見ても予測の当てはまりがよいとはいえない。

回帰式の精度

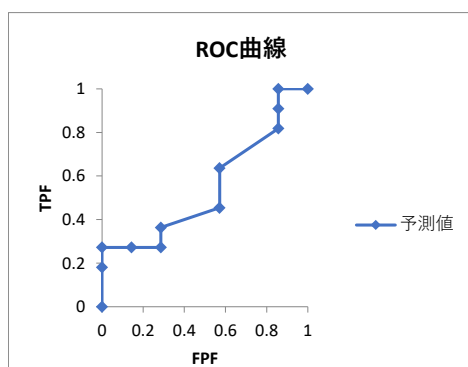
-2対数尤度	AIC	R2乗	誤判利率
23.4330	27.4330	0.0259	33.33%

回帰式に含まれる変数

-2対数尤度	標準偏回帰係数	オッズ比	P値
手順書評価 (定数項)	0.3886	1.0962	0.4402
		0.2416	0.5636

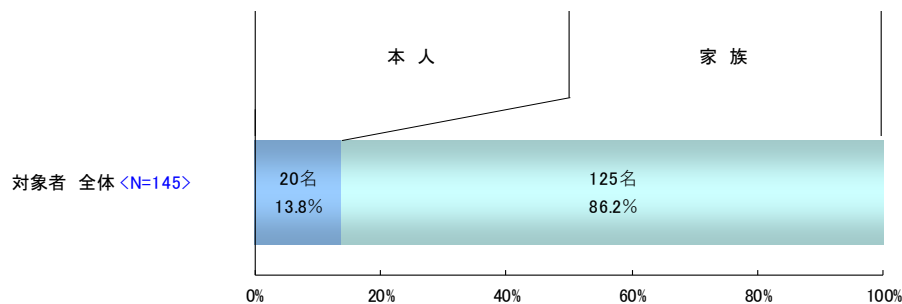
参考:施設調査票 問4 設問項目一覧

No	項目	配点			
		4点	3点	2点	1点
1	わかりやすい	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
2	負担にならない	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
3	利用者の理解を促すのに役立つ	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
4	家族の理解を促すのに役立つ	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
5	新たな病歴やリスクが把握できる	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
6	他の職員と転倒リスクを共有するのに役立つ	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
7	日常業務で活用できる	そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう



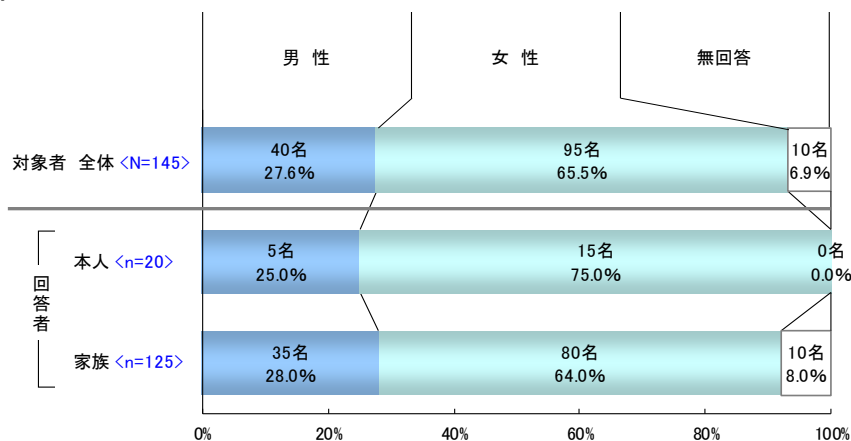
Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート
回答者の対象者との関係



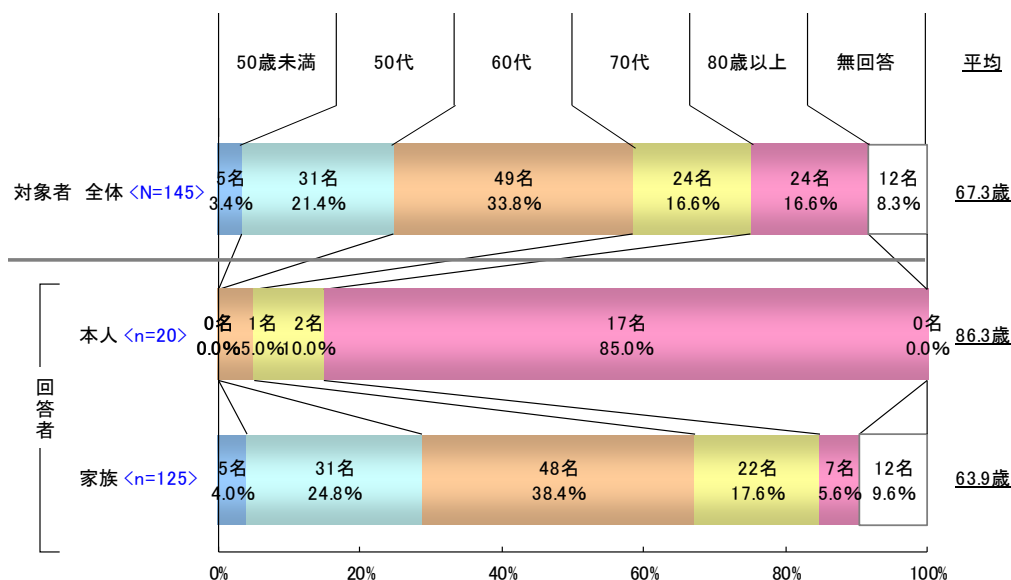
※回答対象者148名のうち、3名が調査票欠損のため、集計から除いた。

■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート
回答者の性別



Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

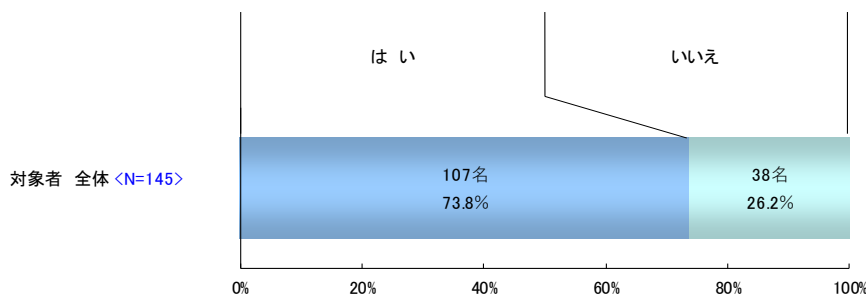
■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート
回答者の年齢



Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

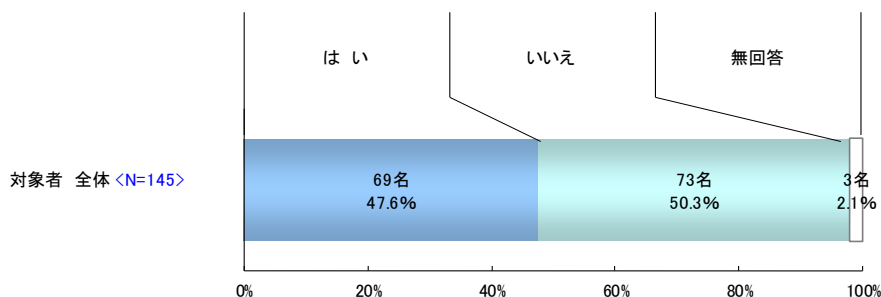
■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

問1. この1年間で転んだことがある



■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

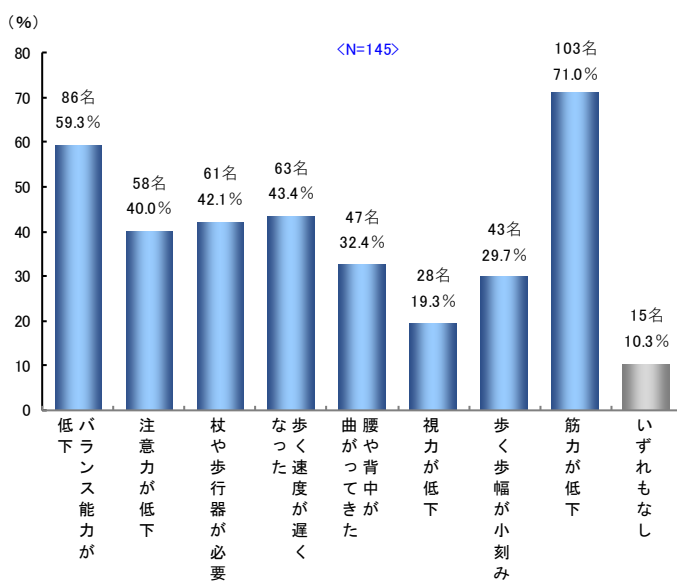
問2. ひと月以上入院した・ひと月以上寝たきりだった



Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

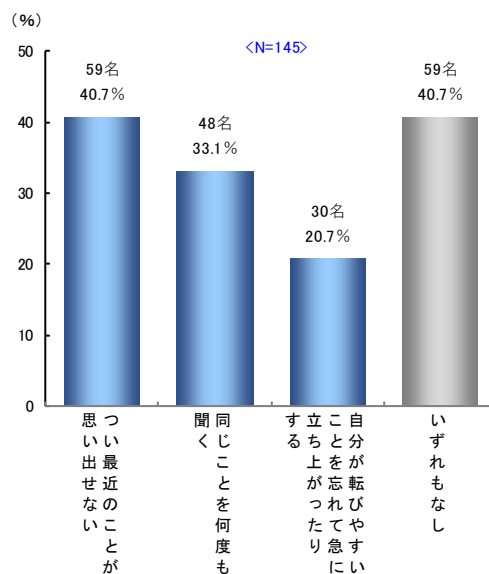
問3. 運動機能などが低下してきた(複数回答)



回答者	本人 <n=20>	5名	4名	5名	5名	4名	2名	1名	8名	4名
	割合	25.0%	20.0%	25.0%	25.0%	20.0%	10.0%	5.0%	40.0%	20.0%
家族 <n=125>	81名	54名	56名	58名	43名	26名	42名	95名	11名	
	割合	64.8%	43.2%	44.8%	46.4%	34.4%	20.8%	33.6%	76.0%	8.8%

Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

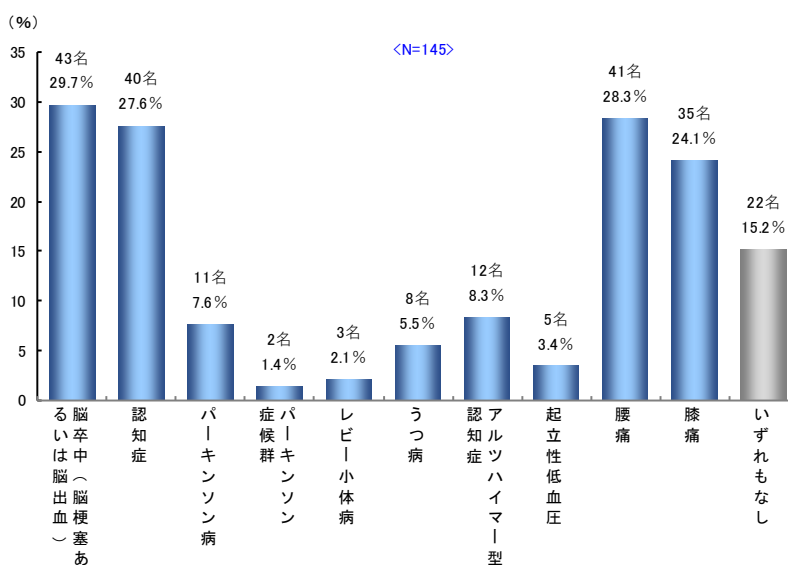
■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート
問4. 認知機能や記憶力が低下してきた(複数回答)



回答者	本人 <n=20>	4名 20.0%	1名 5.0%	0名 0.0%	15名 75.0%
	家族 <n=125>	55名 44.0%	47名 37.6%	30名 24.0%	44名 35.2%

Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート
問5. 病気や身体の状態:次のような病気や症状がある(複数回答)

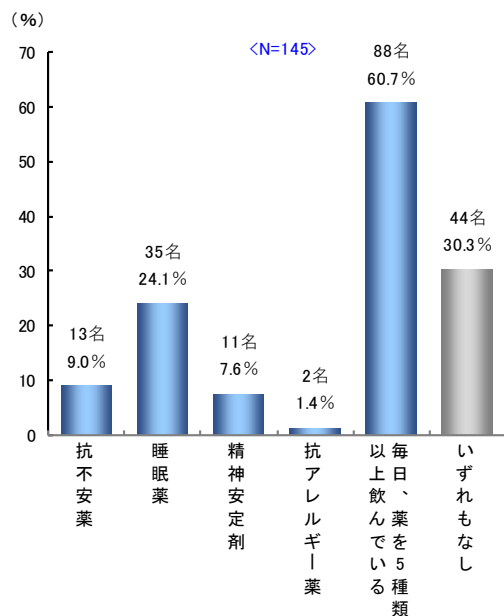


回答者	本人 <n=20>	4名 20.0%	0名 0.0%	2名 10.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	1名 5.0%	0名 0.0%	1名 5.0%	6名 30.0%	4名 20.0%	4名 20.0%
	家族 <n=125>	39名 31.2%	40名 32.0%	9名 7.2%	2名 1.6%	3名 2.4%	7名 5.6%	12名 9.6%	4名 3.2%	35名 28.0%	31名 24.8%	18名 14.4%

Ⅲ. 参考:その他集計結果 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

■ 個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート

問6. 飲んでいるお薬: 次のような薬を飲んでいる(複数回答)

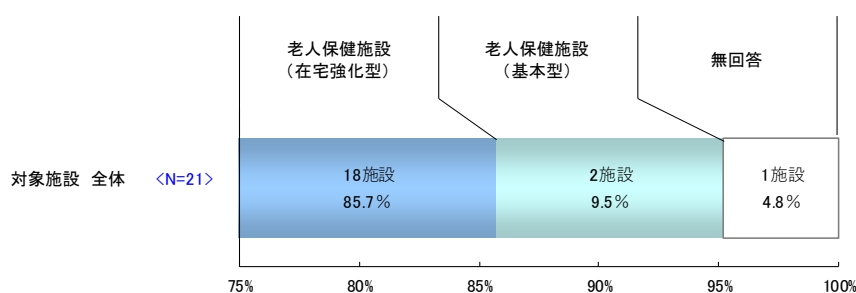


回答者	本人 <n=20>		家族 <n=125>	
	本人 <n=20>	1名 5.0%	1名 5.0%	0名 0.0%
家族 <n=125>	12名 9.6%	34名 27.2%	11名 8.8%	2名 1.6%
			10名 50.0%	9名 45.0%
			78名 62.4%	35名 28.0%

30

Ⅲ. 参考:その他集計結果 施設調査票

■ 施設調査票 問1. 施設類型

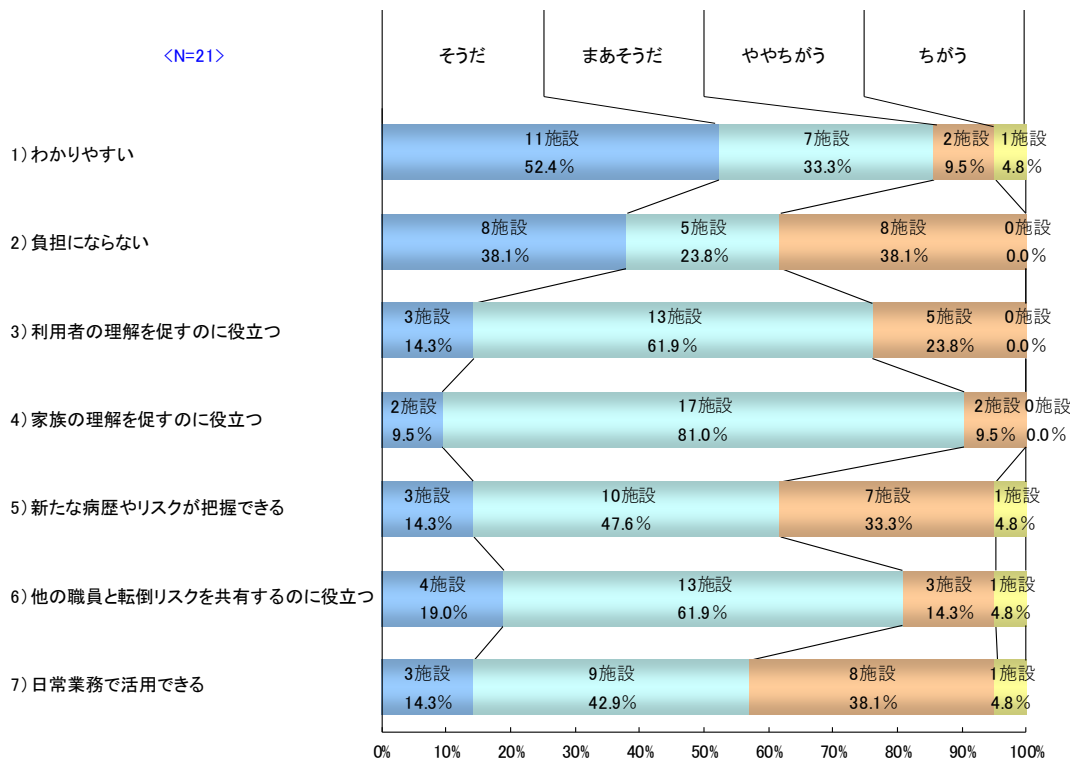


※「特別養護老人ホーム」、「認知症グループホーム」、「その他」は0件

31

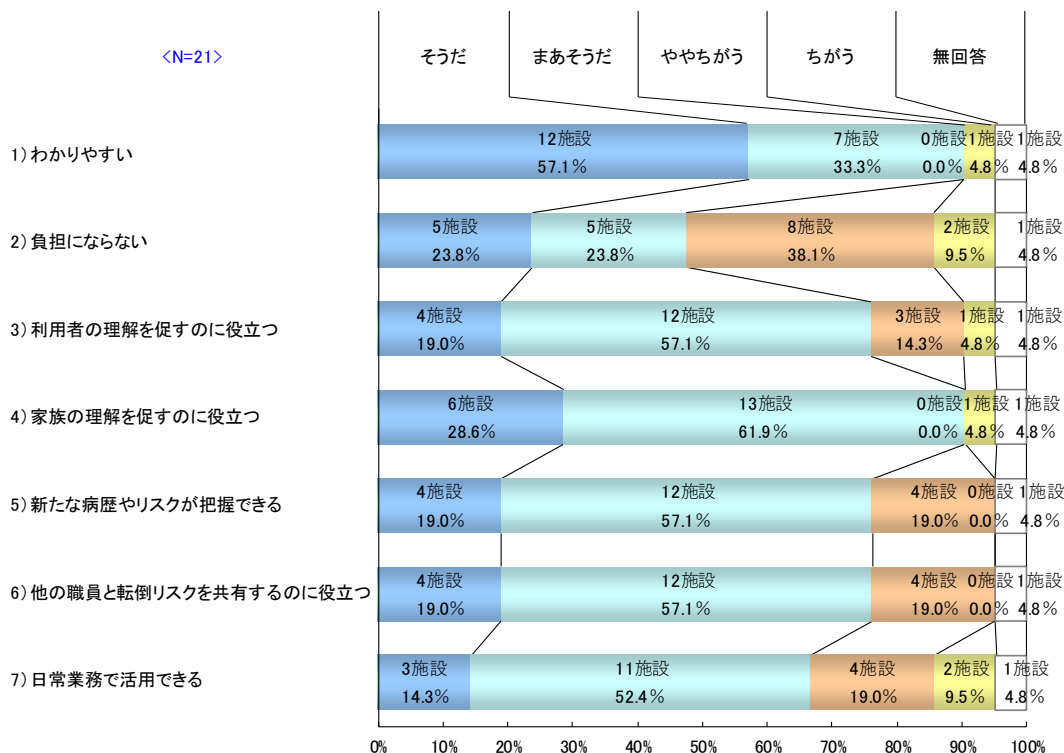
Ⅲ. 参考:その他集計結果 施設調査票

■ 施設調査票 問2.「個別調査票①:転倒リスク評価表」について、最も当てはまるもの



Ⅲ. 参考:その他集計結果 施設調査票

■ 施設調査票 問3.「個別調査票③:事前にご記入いただくチェック・シート」について、最も当てはまるもの



Ⅲ. 参考:その他集計結果 施設調査票

■ 施設調査票 問4.「手順書」について、最も当てはまるもの

